

茨城県

渡邊 拓海(29歳) ・ 若菜(30歳) さん

露地野菜



新規就農を志した経緯・背景

夫婦ともに大学で園芸学を学び、以前から農業に興味を持っていたが、親族に農家がおらず就農を諦めていた。妻が朝日里山ファームの新規就農を応援する仕組みを知ったことをきっかけに、やさと地域での有機農業に魅力を感じて移住、令和 5 年に就農した。

当事業の取組内容

活用 ・ 資材・機械の購入（管理機、保冷库、防虫ネット等）

研修 ・ 研修先の有機農家から栽培技術を学び、栽培方法を実践することで、栽培技術を習得した。
・ 研修中は多くの品目の栽培を経験し、独立後も様々な品目に挑戦した。その中で、独立後の圃場の土質や環境に適した作物を見極めながら、経営の安定化に向けて栽培品目を選定してきた。
・ JAやさと有機栽培部会の生産者からだけでなく、他産地の生産者や種苗会社などからも幅広く情報収集を行った。

経営発展のための取組

- ・ 青年等就農資金、儲かる産地支援事業等を活用した設備投資（作業場の建設、保冷库の導入）
- ・ いばらき農業アカデミーの経営スタートアップ講座、ヤングファーマーズミーティング等の受講
- ・ JAやさと有機栽培部会を通して、熊本、千葉、つくばでの産地間交流会、勉強会への参加

就農状況と今後

研修（R 3～R 5 年）

- ・ 令和 3 年に準備型を活用し、研修を開始
- ・ 朝日里山ファームにて有機農法の生産、出荷方法を学ぶ。
- ・ 経営スタートアップ講座を受講

就農準備（R 4 年）～経営初期

- ・ JAやさとを通じ、80aのほ場の紹介を受ける。
- ・ 緑肥や地域の畜産堆肥を活用した土づくりにより、就農準備を行う。
- ・ 経営開始資金を活用し、機械等を購入

現在（就農 4 年目）

- ・ 1 年目から圃場の記録を継続的に取り、自身の技術向上に努めたことで営農効率が大幅に改善。その結果営農面積は約 2.5 倍の 2 ha に増加したが、雇用人数は 0 人のまま経営を継続
- ・ 小規模ながら独立から 3 年間黒字経営を続け、今年度の売上目標は 1,000 万円
- ・ 令和 9 年 1 月からは新たに 1 名の海外人材の雇用を計画

今後の目標（就農 7 年後）

- ・ 有機 JAS 圃場を 3.5ha まで拡大。雇用は 2 名、売上目標は 3,000 万円
- ・ JAやさと有機栽培部会への出荷を軸に有機農産物の増産を目指す。

茨城県

吉岡 和良(44歳)・栄子(43歳)さん

施設野菜



新規就農を志した経緯・背景

民間企業に勤めていたが、独立志向が強く、自分の采配で自由に決める事のできる農業にあこがれを抱いていた。妻と相談し、茨城県農林振興公社に相談し、地元の農業経営士のもとで研修を行い、令和5年に就農した。

当事業の取組内容

活用

- ・施設ハウスのリース料
- ・内張カーテン購入費用
- ・ハウスの全面張替費用
- ・就農初期の運転資金

研修

- ・きゅうりハウス部会に加入し、栽培技術を学び、情報収集を行った。
- ・また、圃場巡回を通して、先輩方とのコミュニケーションを図り、円滑に就農する為の土台作りに力を注いだ。
- ・いばらき農業アカデミー講座にて、農業機械の基本操作、農業全般の基礎知識を学んだ。
- ・積極的に地域と交流を行い、地元農家とのつながりを構築した。

経営発展のための取組

- ・就農1年目に、病害虫の発生で収量を減らしてしまった際、部会の先輩方の助言により生育ステージの先を見通した栽培管理方法に取組み、次年度から農業所得が安定した。
- ・夏場の高温対策として、ハウスの屋根に遮光剤を塗布。
- ・病害虫の発生を抑制するため、農薬のローテーション散布を工夫した。

就農状況と今後

研修（R 3～R 5 年）

きゅうり栽培管理、技術全般

- ・令和3年に準備型を活用し、研修を開始
- ・いばらき農業アカデミー講座受講
- ・準備型と自己資金で生計維持

就農準備（R 4 年）～経営初期

- ・第三者継承で、既存の施設ハウスを賃借
- ・きゅうりハウス部会に加入し、先輩方とコミュニケーションを図る。
- ・経営開始資金を就農初期の運転資金として活用

現在（就農4年目）

施設きゅうり20 a
（5連棟ハウス）

- ・就農1年目は病害虫の発生により収穫量が減少したため消毒をローテーションで実施し、さらに事前消毒を行うことによって、収穫量を増加させた。
- ・JA出荷を基本とし、農業所得は約430万円

今後の目標（就農10年後）

施設栽培きゅうり20 a
（5連棟ハウス）

- ・家族経営を基本とし、繁忙期は雇用を確保する。
- ・農業所得目標は600万円

栃木県

川方 俊明 さん (49歳)

施設野菜



新規就農を志した経緯・背景

民間企業に勤めていたが、地元鹿沼市の発展に貢献したいという思いが芽生えた中で、市のいちご新規就農研修制度を知り、就農を志した。

当事業の取組内容

- 活用**
- ・就農準備資金は研修中の生活費に充てた。
 - ・経営開始資金は就農初期の運転資金に利用した。（出荷資材・肥料・農薬の購入など）
- 研修**
- ・鹿沼市いちご・にら新規就農者支援対策協議会の研修制度により、農業生産法人かぬまで2年間の研修を受けた。
 - ・就農後の出荷先（JA）の現地検討会等に参加し、技術習得に努めた。
 - ・市農業公社が農地を斡旋し、円滑に農地を取得（賃借）できた。
 - ・青年等就農計画を作成する際、市役所、JA、先輩農家、普及指導員等に相談しながら施設整備内容を検討、市単補助事業、経営発展支援事業を組み合わせ、自己負担額や融資借入額を抑えた。

経営発展のための取組

- ・1年目はハウスや畝立て準備に苦労し定植が約1か月遅れたが、単収4.2t/10aを達成。当初の所得目標を超えた。
- ・2年目から収穫量の増加に伴い、収穫やパック詰め雇用の確保し、ロスのない出荷に努め、目標単収の6.6t/10aを達成。
- ・天敵農薬や防虫ネット等の活用により化学農薬散布回数を抑え、収穫やパック詰め作業に集中できるよう努めている。

就農状況と今後

研修（R 3～R 4 年）

育苗～出荷までの作業全般

- ・農業生産法人で2年間研修
- ・就農準備資金や自己資金で生計を維持

経営初期（R 5 年）

いちご18a 家族労力2人
パート雇用3人

- ・1作目の育苗は、市農業公社所有のハウスをレンタルした。
- ・冬春作のため、収穫開始までは経営開始資金や自己資金で生計を維持

現在（就農4年目）

いちご18a 家族労力2人
パート雇用7人

- ・栽培が安定し収量向上
- ・パート雇用を増やし、出荷ロスや1人当たりの労働時間の削減に努め、概ね18時終業を心がけている。

今後の目標（就農7年後）

いちご20a 家族労力2人
パート雇用7人

- ・病虫害防除の徹底により、単収・販売額向上を図る。
- ・作業人員は現状を維持
作業員1人当たりの労働生産性を高め、無理のない経営を目指す。

群馬県

齊藤太一さん（30歳）

施設野菜



新規就農を志した経緯・背景

農家である父に憧れ、自らもいちご栽培に携わりたいとの思いから、2年間の研修を経て令和4年に新規独立就農しました。お客様に「美味しい」と喜んでいただけるいちごづくりを目指し、日々栽培技術の向上に取り組んでいます。今後も高品質ないちごを安定して生産できるよう研鑽を重ねます。

当事業の取組内容

活用

- ・研修中や就農初期の生活費のほか、苗代、肥料代、農薬代、資材費などの運転資金として活用。
- ・収穫による収入が安定するまでの経営基盤の確立に役立てる。

研修

- ・独立就農後に安定した栽培ができるよう、研修期間中は栽培技術の習得を最優先に取り組んだ。
- ・研修生という立場を活かし、日々の作業だけでなく栽培の考え方について積極的に学んだ。
- ・研修修了後も継続的に助言を受けられる関係を築き、現在の営農に活かす。
- ・経営も重要だが、まずは高品質ないちごを生産するための栽培技術の向上に努めた。

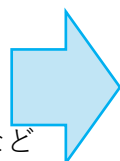
経営発展のための取組

- ・就農後は毎年発生する栽培や経営上の課題を一つひとつ分析し、改善を積み重ねることで経営の安定化を図っている。
- ・就農2年目以降に直売所を開設し、消費者へ直接販売することで収益性を向上させ、黒字経営を実現。
直売だけでなく、業務用として事業者との契約販売にも取り組み、安定した販路の確保につなげている。
- ・人との縁や信頼関係を大切にし、生産者仲間や取引先、関係機関とのつながりを活かしながら経営発展に努める。

就農状況と今後

研修（R 2～R 3年）

- ・令和2年に準備型を活用し、**研修を開始**
- ・いちごの栽培技術の習得
- ・育苗、定植、収穫、出荷調整など
- ・販売方法や経営管理に関する知識の習得



経営初期（R 4年）

- ・ハウス1棟土耕15a
- ・就農準備期間および経営初期は収穫や販売による売上が十分に確保できないため、研修先へ継続的に相談しながら、自身の農業経営や栽培管理の改善に活かした。
- ・**経営開始資金を資材費等の運転資金として活用**



現在（就農5年目）

- ・ハウス1棟土耕15a
- ・直売所を中心とした販売に力を入れ、売上の向上に取り組んでいる。
- ・売上1,000万円の達成を目標として経営規模の拡大に取り組んでいる。



今後の目標（就農10年後）

- ・ハウス2棟土耕30a
- ・作業効率の向上と安定した経営のため、常時雇用者1名の確保を目指す。また、出荷調整の繁忙期には複数名のパートを雇用し、労働力の確保に努める。
- ・高品質ないちごの安定生産と販路拡大を進め、売上2,000万円の達成を目標とする。

埼玉県

匿名 希望 さん (45歳)

露地野菜



新規就農を志した経緯・背景

大学（工学部）を卒業後、民間企業に15年間勤務。妻の実家が切り花経営を行っていたことから農業に対して魅力を感じていた。

令和 4 年から J A 花園が県の就農支援事業である「明日の農業担い手育成塾」を開始する情報を得て、地域の特産品目であるねぎなどの露地野菜経営を開始することを目指して入塾。3 年間の研修ののち独立就農した。

当事業の取組内容

活用

- 農業機械を購入
- ・ねぎ皮むき器
 - ・ねぎ調整ゴミの運搬車
 - ・ライムソー
 - ・トラクターアタッチメント等

研修

- ・農業経験が全く無かったため、1 年目の入塾前研修期間中は、指導農家に積極的に質問し、よく学ぶとともに、2 年目以降の研修農地での実践研修においては、栽培品目やその栽培技術等の「完コピ」により再現を目指した。
- ・しかし、うまくいかないことも多々あり、土壌や栽培環境などの違いにより、同じような野菜が生産できないことが学習できた。その場合の対処方法も指導農家に細かく学び、早期に技術向上を図ることができた。

経営発展のための取組

- ・資金を活用する等をして機械に投資した。
- ・J A との連携を密にすることで、経営拡大に向けた農地確保の協力を得られた。
- ・就農後も指導農家に教えを乞うとともに、同期の研修生と切磋琢磨することで早期の経営発展が行えた。

就農状況と今後

研修（R 4 ～ R 6 年）

- ・令和 4 年に明日の農業担い手育成塾の入塾前研修を受け、**令和 5・6 年に就農準備資金を活用し、同塾で実践的な営農技術を学んだ。**
- ・アルバイトをしながら研修を受けた。

就農準備（R 6 年）～経営開始

- ・実践研修 1 年目は 40a であった研修農地を 2 年目には 1 ha に拡大した。
- ・実践研修 2 年目に**経営開始資金も活用し、機械（管理機 2 台、ねぎ皮むき器）を購入**

現在（就農 2 年目）

- ・特定技能生 1 名を受け入れている。
- ・1,400 万円程度の売上を計上

今後の目標（就農 7 年後）

健全な経営を継続し、面積を拡大する。
 ねぎ：1.3ha→2ha
 ブロッコリー：1.6ha→3ha
 なす：10a
 とうもろこし：15a→50a

東京都

関 拓真さん (27歳)

露地野菜



新規就農を志した経緯・背景

幼少期に家庭菜園で収穫して配った野菜が人に喜ばれた経験から、農業を通じて多くの人を笑顔にしたいと考え、農業にやりがいを見出した。

技術や経営ノウハウを習得でき、2年後には農家として独立就農できることから、東京農業アカデミー八王子研修農場に入講し就農に至った。

当事業の取組内容

活用

- ・生活費
- ・就農初期の運転資金
- ・機械等の導入資金

研修

- ・研修が進むにつれて、露地野菜の大規模経営に興味湧いた。
- ・そのため、大規模栽培に適し、需要も高いキャベツ、ブロッコリー等の栽培技術の習得に注力した。
- ・農地面積が必要になるため、都内では比較的農地の確保がしやすい瑞穂町を就農候補地とし、農地中間管理機構や町と連携して研修中に農地・住居を確保した。

経営発展のための取組

- ・パイプハウスを新設し、露地野菜に加えてキュウリ、ナス等の施設栽培に力を入れる。
- ・農福連携による労力確保を行うため、トイレ整備等の作業者の受入体制の整備を進める。
- ・農地の集積を進め約3ha規模での営農を目指す。

就農状況と今後

研修

(R4年4月～R6年3月)

農業に必要な実践的な技術や経営に関する知識の習得

- ・令和4年に研修を開始
- ・**就農準備資金で生計を維持**
- ・就農地での農家実習

就農準備 (R4年)～経営初期

研修と並行した農地の確保

- ・農地中間管理事業等の活用により農地86aを確保
- ・無償貸借でパイプハウス2棟も確保
- ・地域の農家や近隣住民への挨拶まわりを実施
- ・**経営開始資金を就農初期の運転資金として活用**

現在 (就農3年目)

約1.8haの畑でキャベツ、ブロッコリー、キュウリ等をスーパーや学校給食等に出荷

- ・スーパーの販売店舗を拡大中
- ・町や都の補助金で農業機械等購入

今後の目標 (就農5年後)

パイプハウスを新設し、キュウリ、ナス等の施設栽培に取り組み、安定出荷を図る

- ・省力機械導入による露地野菜の拡大を進める
- ・拡大に伴い雇用労力を導入する予定

千葉県

新井 康太 さん (46歳)

施設野菜



新規就農を志した経緯・背景

青年期にワーキングホリデーでオーストラリアに行き、トマトファームで農業に従事したことで、農業に魅力を感じた。さらに、飲食業で店長、店舗管理を経験の上、食材の仕入れ担当にも従事。食で人を豊かにし、今までの経験を活かせる農家になることを決意。

当事業の取組内容

活用

- ・生活資金

研修

- ・青年等就農計画を作成する際、先輩新規就農者や関係機関に相談し、労働力確保や施設の維持・管理計画を見直した。
- ・研修先である長生農業独立支援センター（以下、支援センターという。）から空きハウスの紹介があり研修終了後、円滑に営農開始ができるよう修繕箇所、方法や費用を事前に確認した。
- ・就農 1 年目から多くの労働力が必要であることから、パート従業員の採用に向けた準備を行った。

経営発展のための取組

- ・売上増加に向けて、単収を増加させる。
そのために、経営発展支援事業を活用して、新たな養液栽培システムを導入し、栽植本数の増加に対応できる栽培設備を整える。
- ・さらに、防虫ネットの展張や薬剤防除のローテーションの見直し等により病害虫防除を徹底する。

就農状況と今後

研修

(R 5 年12月～R 7 年 9 月)

- ・令和 5 年に就農準備支援資金を活用し、研修を開始
- ・支援センターの紹介を受け、長期養液栽培トマト農家において実践的な研修を行い、栽培技術および経営管理手法を習得

就農準備

(R 5 年12月～)

～経営初期

- ・営農計画の作成
- ・先輩新規就農者からの情報収集
- ・支援センターから紹介のあった空きハウスの修繕箇所、方法や費用を確認
- ・パート従業員確保準備
- ・経営開始資金を生活資金として活用

現在（就農 1 年目）

長期養液栽培トマト33a
（ハウス 1 棟）
パート従業員 4 名

- ・ハウスの修繕作業
- ・JAに共選共同出荷を開始
- ・新たな養液栽培システムを導入予定

今後の目標（就農 5 年後）

経営面積は現状を維持し、
売上増加に向けて、
収量向上を図る。

- ・栽植本数の増加
- ・病害虫防除の徹底

神奈川県

佐藤 達哉 さん (40歳)

露地野菜



新規就農を志した経緯・背景

自身に障がいのある弟がおり、前職ではNPO・社会福祉法人の経営や障害者就労支援に従事。農業分野での障がい者の活躍の可能性（農福連携）を知る。個人農家として、農業経営を学びながら経験を積み、将来は障がい者の活躍の場を創りたいと考え、就農を希望した。

当事業の取組内容

活用

- ・経営初期の運転資金
- ・農業機械や資材費
- ・施設整備費や賃借料等

研修

- ・かながわ農業アカデミーにて、独立自営就農を見据えた農業経営全般を学ぶ。
- ・在学中に、農業技術検定や簿記検定、運転免許等を取得（大型特殊等）。
- ・圃場を一人で自主管理する経験が、就農後の具体的な経営イメージ醸成へと繋がる。
- ・卒業後は（一社）海老名市農業支援センター所属にて、技術習得を継続。
地域の農業者や行政機関との関係を築くとともに、就農に必要な農地・機械等の情報収集へと繋がった。
当時を振り返れば地域の様々な先輩農業者の背中を見て取組みを学ぶことが、就農後の経営の一番の助けとなった。

経営発展のための取組

農家として学ぶことはまだまだ多いと感じながらも、個人の作業量・生産量等には限りがあることを感じていた。近隣の障害者施設と連携し、施設利用者と共に農作業を行う体制構築に向けて取り組んでいる。多様な人が活躍できる労働環境の改善や自動化機械の導入を通じて生産力を高め、消費者に農産物を安定供給できる経営を実現する。

就農状況と今後

研修（R 4 年）

・令和4年に就農準備資金を活用し、研修を開始
『かながわ農業アカデミー』にて
・先進農家にて研修
・栽培及び防除技術
・農業機械操作
・出荷調製及び販売
・経営管理等を学習

就農準備（R 5 年）～経営初期

- ・『（一社）海老名市農業支援センター』にて露地畑や施設畑にて野菜生産に従事。就農地における技術習得と並行して経営開始に向けた準備（農地・機械等の確保）に取り組む。
- ・**経営開始資金を活用し、機械や資材等を導入**

現在（就農3年目）

- ・露地、施設畑にて野菜を生産。農協直売所やスーパーへと出荷
- ・就農当初は特に作業段取りが悪く、販売面で悪戦苦闘するも、施設では環境制御を導入し効率改善を目指す。

今後の目標（就農10年後）

激甚化する将来の気候変動にも対応できる栽培技術を習得し、農産物を消費者に安定供給し続けることを目指している。
その農業経営の中で、障害者が携われる作業や分野を創ることを目標としている。

長野県

市川 薫(41歳)・智美(43歳)さん

花き



新規就農を志した経緯・背景

運送業で自然災害による物流停滞を経験したことをきっかけに、地域に根ざした生産者として農業で生計を立てたいと考え就農を志した。

就農相談会への参加を機に茅野市を訪れ、魅力を感じ移住を決意。キク栽培を学び、地元農家との交流を重ねながら経験を積んでいる。将来は地域に根ざした農業経営を目指す。

当事業の取組内容

活用

- ・生活費
- ・就農準備、経営開始後の資材等の購入資金

研修

- ・長野県新規就農里親制度を活用し、里親農業者のもとで2年間実践的な農業経営の技術習得を行った。
- ・また、県講習への出席や農業機械の資格を取得。
- ・積極的に地域と交流し、地元の先輩農家やJA、市、県などの関係機関との繋がりを構築した。
- ・研修中から情報収集を行い、候補地の選定や苗の確保等就農に向けた準備を行い、スムーズな就農に繋がった。

経営発展のための取組

- ・育苗管理やかん水、病虫害防除などで失敗した際には記録を残し翌年の改善に繋がった。地域の仲間と協力し、新たな技術の導入にも取り組んでいる。
 - ・経営発展支援事業や青年等就農資金を活用して、規模拡大による収益向上のためハウスや農業機械等を導入している。
- また、品質維持のため冷蔵庫を導入し所得の安定を図る。

就農状況と今後

夫婦型で
農業経営

研修（R4～R5年）

- ・令和4年から就農準備資金を活用し、キクの専業農家で研修を開始
- ・栽培管理・経営管理を2年間実践を踏まえて体系的に習得
- ・地元農業者や関係機関とも関係構築を図った。

就農準備～初期（R6年）

栽培面積25a(ハウス2棟3.5a)

- ・里親農業者や地元の協力を得て農地や中古機械の確保とハウスの建設技術を習得
- ・就農初年度は霜の被害等あったものの概ね栽培は順調で計画以上の出荷ができた。
- ・初年度所得 約240万円
- ・経営開始資金を活用し、資材等の購入

現在（就農3年目）

栽培面積42a(ハウス7棟12a)

- ・暑熱対策や夜蛾対策に取り組む収量と品質の向上に取り組んでいる。
- ・規模拡大に伴いアルバイトを雇用
- ・就農2年目所得 約300万円

今後の目標（就農10年後）

栽培面積100a(ハウス14棟25a)

- ・キクだけでなくほかの品目も導入しリスク分散を図る。
- ・規模拡大を図り、生産目標3000ケース、売上2400万円目標所得800万円を目指す。

静岡県

日吉 祐二 さん（45歳）

施設野菜



新規就農を志した経緯・背景

生活していくためだけに働くことに疑問を持ち、何かやりがいがある仕事をしたいと考えるようになり、妻が農業に携わっていたことから興味を持ち、自身も農業を志すようになった。

当事業の取組内容

活用 ・経営初期の運転資金として活用した

研修 ・研修に入った指導農家の経営主とその息子さんでイチゴ管理の視点が異なっていた。研修では双方の良いところを取り入れられるよう、仕事の進め方をよく観察し、独立時に参考になった。
・研修と平行して、農地の確保やハウス等の栽培設備の整備を進めていたが、ロシア・ウクライナ戦争の影響で初期投資費用が上昇してしまった。そのため投資対象を精査して、費用を圧縮した。

経営発展のための取組

- ・規模拡大は現時点では考えておらず、単位面積あたりの収益を伸ばす（単収や販売単価の向上）考え方でいる。
- ・品種構成を見直し、年内収量の増加や出荷・調製作業の分散を図っていく予定。

就農状況と今後

研修（R 4 年）

農作業全般・農薬取扱
経営管理等

- ・令和 4 年に準備型を活用し、**研修を開始**
- ・指導農家の元、イチゴの育苗から収穫、出荷調製まで一連の作業の指導を受ける。

就農準備（R 4 年）～経営初期

イチゴ（高設）25a
（ハウス 2 棟）

- ・指導農家の斡旋により農地を確保
- ・青年等就農資金などを活用し、ハウスと高設栽培設備を整備
- ・**経営開始資金を経営初期の運転資金として活用**

現在（就農 4 年目）

イチゴ（高設）25a
（ハウス 2 棟）

- ・令和 7～8 年作の農業所得は約 500 万円の見込み
- ・パートの雇用人数を最低限にし、人件費を抑えている。

今後の目標（就農 10 年後）

イチゴ（高設）25a
（ハウス 2 棟）

- ・目標所得は 730 万円
- ・今ある設備をフル活用し、収益性を高めていきたい。

兵庫県

山口 祐基 さん（36歳）

果樹



新規就農を志した経緯・背景

元々食に興味があり、メーカー勤務時代から、良い製品を作り、良いサービスを提供して「自分の裁量で価格を決めたい」という思いを抱いていた。自身の努力や工夫によって商品価値を高められる農業に魅力を感じ、挑戦することを決めた。

当事業の取組内容

- 活用
- ・ 研修中の生活費に活用
- 研修
- ・ 品目の選定にあたっては、30か所以上のほ場を見て回り、自身の栽培技術や創意工夫によって付加価値を生み出せる「いちじく」を選定。
 - ・ 兵庫楽農生活センター^(※)での研修では、野菜の栽培技術を習得。また、独自で先輩のいちじく生産者に教えを請い、栽培技術に加え、袋詰めや価格設定などの経営ノウハウを学んだ。
- ※農業体験や交流活動、就農希望者向けの農業研修等を実施する拠点施設

経営発展のための取組

- ・ バイオ資材を活用した栽培技術や、経験値を踏まえた水管理の徹底等、収量の向上と収益率の改善に向けた取組を実践。さらにデータ化による経営の安定性を確保。
- ・ 資金の有効活用と経営基盤の整備、強化に努めた結果、売上は順調に推移し、所得目標は当初計画より2年前倒しで達成。

就農状況と今後

研修（R 2 年）

- ・ 令和2年4月からいちじく農家に弟子入りし、栽培技術や販売技術を学ぶ。
- ・ **令和3年から準備型を活用し、兵庫楽農生活センターで1年間研修**



経営開始（R 4 年）

- いちじく 40a
- ・ 令和4年9月経営開始。
 - ・ J A の幹旋により規模縮小の農家から農地を借り入れ
 - ・ **初期の機械・施設整備等に経営開始資金を活用**



現在（就農5年目）

- いちじく 50a
葉物野菜 ハウス3棟
(チンゲンサイ等)
- ・ 収穫時期にはシルバー人材を雇用
 - ・ 県の補助事業を活用し、栽培環境の整備を実施



今後の目標（就農10年後）

- ・ 新たな農地を借り入れ、営農基盤の充実を図るとともに、新規需要を開拓
- ・ より収量・収益率を向上させるため、資材への投資や、栽培技術を工夫し、経営の安定化を図る。